

たいにい・ぼっくすつうしん

Vol.17

平成28年8月8日

ともに同じ時間を共有すること。

思いがけない遅い梅雨明けで、これから来る猛暑にビクビクしています。

“たいにい・ぼっくす”では、兼ねてからスタッフのことを「先生」と呼ばないように子どもたちに働きかけています。“先生ではない”ことスタッフにも意識してもらっています。帰りの会では、スタッフの名前を覚えてもらうために毎回それぞれ自分の名前を言ってから発言しています。

つい先日、「先生」と呼ばれたので「〇〇さん、って呼んでね」と答えると、それを聞いていたお友だちが「なんで、先生でいいじゃん、先生って悪い呼び方なの？」と言いました。一瞬言葉に詰まりました。解りやすくどのように伝えたらよいのか解らなかつたからです。“先生”は決して悪い呼び方ではありません。でも、私たちスタッフも、子どもたちから学び得るものが多くあります。教える人と学ぶ人との関係ではなく、同じ時間を共有する人と人との繋がり、で、“たいにい・ぼっくす”という場所を通じて築かれるものがあるのだと思います。

【津久井やまゆり園の事件について】

事件の被害に遭われた利用者様、ご家族、職員さんにかかる言葉も見つからないほど痛ましい事件です。亡くなられた方に哀悼の意を表し、心や体に傷を負われた方の早い回復を願います。

今年7月7日、たいにい・ぼっくすで救急一次救命の研修をおこない、講師として津久井やまゆり園の職員さんが2名来てくれました。地域福祉の発展のため、一人でも尊い命を救うため、相模原市の福祉事業所を周って活動をしています。その取り組みが一瞬で無に陥る悔しさは、今回限りとならなければなりません。

事件発生後、その話題に触れないで“たいにい・ぼっくす”では過ごしましたが、手をつなぐ育成会が出した声明文に共感し、子どもたちに伝えなければならないと思い、朝の会で読み上げさせてもらいました。

私が前職場を退職する際、「重症心身障がいの次女が誕生し、障がい者施設で働く自分がこんなに衝撃を受けるとは思わなかった」「ご家族の想いに寄り添うことができていなかった、おもいあがっていた」との内容の文を退職のコメントとしたのをよく覚えています。次女が生まれたことで自身の進む道を考え、“たいにい・ぼっくす”ができ、退職先のご家族から激励の手紙と時計が送られ、子どもたちとの繋がりができました。次女がいなければ成しえなかったことが、いま、たくさん起きています。この人と人の繋がりは、「不幸を作ることしかできない」ことを否定し、「意味のない命はない」ことの証なのです。



田嶋 史門

たいにいの活動



スイカ割りと流しそうめんです。写真少なくてすいません。

9月 イベントの予定

敬老の日創作活動

お月見創作活動

9月 休業日

3日 4日

10日 11日

17日 18日 19日 22日

24日 25日

